第５講　再読文字

PART１　未・将・且

再読文字…最初は返り点を無視して副詞として読み、二度目は返り点に従って助動詞（動詞）として読む。

（例）　未　来

① **未＝未（いま）ダ〜ず／（まだ〜ない）**

（例）　**未**レ還（かへラ）。　〔　　　　　　〕（まだ戻ってこない。）

前代**未**聞　〔前代に　　　　　〕〈＝今までに一度も聞いたことがないこと。〉

② **将・（且）＝将（まさ）・（且（まさ））ニ〜ントす／（〜しようとする・〜しそうだ）**

（例）　**将**レ食（セント）。　〔　　　　　　〕（今にも食べようとする。）

＊「将」が再読文字ではないとき＝「はタ」（あるいは）や「もっテ」などと読む。

且レ飲レ之。〔　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　〕

問一 再読文字「且」と同じ読みである再読文字として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 将　イ 当　ウ 応　エ 宜　オ 須　カ 未

問二 「病ミテ<u>且死</u>、…」の傍線部の、A 読み方と B 解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

A
ア まさにしせんとし　イ まさにしすべくして
ウ よろしくしすべくして　エ すべからくしすべくして
オ なんぞしせんとし

B
ア 少しの間、死んだようになって　イ 死んだ方がましだと思って
ウ 今や死にそうになって　エ 必ず殺されると思って
オ それでも生きたいと望んで

問三 「甘茂（かんぼう）亡ゲレ秦ヲ、<u>且之斉</u>ニ、…」の傍線部をひらがなのみの書き下し文にせよ。

注 甘茂…秦の宰相。
斉（せい）…地名。

第５講　PART１　確認問題

①「未ㇾ能(あた)ハㇾ事(つか)フルㇾ人(ひと)ニ。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひとにつかふるあたはず。
イ　それひとにつかふるあたはず。
ウ　いまだひとにつかふるあたはず。
エ　まさにひとにつかふるあたはんとす。

②「唯(た)だ春江の看(み)れども未(いま)だ厭(あ)かざる有り。」と読むには、返り点はどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯有二春江看ㇾ未ㇾ厭一。
イ　唯有二春江看未ㇾ厭一。
ウ　唯有三春江二看未ㇾ厭一。
エ　唯有三春江二看未一厭。
オ　唯有三春江看二未厭一。

③「将」は再読文字の一つである。次の中から再読文字でないものを一つ選べ。

ア　応　　イ　遂　　ウ　宜　　エ　須

④「将二以テ釁（ちぬ）ラントレ鐘ニ。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まさにもつてかねにちぬらんとす。
イ　まさにもつてかねにちぬらんとせず。
ウ　いまだもつてかねにちぬらんとせず。
エ　まさにもつてかねをちぬらんとすべし。

⑤「未二嘗（かつ）テ有レ材。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まだかつての木が残っている。
イ　かつてはここに木が生えていた。
ウ　今まで木がなかったことはない。
エ　今まで一度も木が生えたことはない。

第5講　PART1　解答

①〔未だ還らず。〕
〔前代に**未だ聞かず。**〕

②〔将に食せんとす。〕
〔且に之を飲まんとす。〕（今にもこれを飲もうとする。）

問一　ア

問二　A　ア　　B　ウ

問三　まさにせいにゆかんとし、

第5講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「未」は再読文字で「いまダ〜ず」と読む。よって、ウが正解。

② 再読文字の「未」に気をつけること。「未だ厭かざる」と読むことから、「未」の一字下の「厭」から再度戻っているので、「未」の下に「レ点」をつける。さらにそこから「有」に戻るには、二字以上戻るため、「未」は「レ」となり、「有」には「二点」をつける。よって、イが正解。

③ アは「まさニ〜べシ」、ウは「よろシク〜べシ」、エは「すべかラク〜べシ」と読む再読文字。よって、イが正解。

④ 再読文字の「将」は「まさニ〜ントす」と読む。よって、アが正解。

⑤ 再読文字の「未」は「いまダ〜ず」と読み、「まだ〜ない」という意味になる。「嘗」は打ち消しの表現とともに使って「一度も〜ない」という否定の意味を表す。よって、エが正解。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ エ